

北日本新聞

2021年(令和3年)
11月6日
土曜日
大友

守る 小さな命

「さくらねこ」を存じだろ
うか。去勢・不妊手術済みの印
として、耳先を桜の花びら形に
カットした猫のことをいう。猫
と人の共生を促むボランティア
や動物病院が協力し、さくらね
こを増やす取り組みが全国で進
められている。



富山市のNPO法人「わんにゃんレスキュー」の猫

野良猫に去勢・不妊手術

「さくらねこ」活動

命などから、殺処分なんて考
えられない」と話す。
捕獲時を小皿のそばに置いて
ほどなく、茶トラの雌猫の保護
に成功した。県内の動物病院で
不妊手術を受けた後、この住人
の家で傷が治るのを待って、元
の場所に戻されるという。

猫の妊娠期間は約2カ月。年に
3度、一回6匹前後を産むとさ
れ、生まれた子猫も一年とた
ずに繁殖できるようになる。
このため野良猫を放置するとあ
まりに増え、繁殖期の鳴き
声やマーキングの臭いが地域の
トラブルの原因になる。
環境省の手とめによると、犬
や猫の殺処分は年々減少してい
るものの、2019年度は犬の
5635頭に対し、猫は2万マ

「無料不妊手術事業」だ。ボラ
ンティアが野良猫を保護し、協
力病院で去勢・不妊手術を受け
させた上で地域に戻す。費用は
全国からの寄付を元に基金が支
払う仕組みで、これまでに19万
匹以上が手術を受けてきた。
しほの「ころが今回保護し
た雌猫の手術費用もこの仕組み
で支払われる。耳を花びら形に
するのは、手術済みの猫とそう
でない猫を見分け、同じ猫に繰

「一代限りの命見守って」

後日、手術後の猫の写真を送
ってもいいと、耳が花びらの形
になっていた。

殺処分7割子猫

猫の繁殖力は非常に強い。雌

1008頭とほぼ近い。うち約マ
割が産乳前の子猫だった。
生まれてすぐに殺されてしま
う命を減らすため、公益財団法
人「どうぶつ基金」(兵庫)が
04年度に始めたのが「さくらね

り返しストレスを与えないよう
にするためだ。

愛された印

去勢・不妊手術すると猫の
性格が穏やかになり、鳴き声な
どのトラブルが減るほか、猫同
士のひんかやひがのリスクも下
がる。手ききんは「けがをしな
くなれば猫の寿命は延びる。人
間だけがなく猫にもメリットが
ある」と話す。手術を受けた猫
が元気に暮らしていることは、住
民のサポートが欠かせない。今
回のように、猫を見守る人がい
る地域のみ依頼を受けようとい
うことだ。



手術を終えた猫。右耳の先端(円の中)が
カットされているのが分かる

「どうぶつ基金」の佐上邦久理事
長(右)は「さくらねこ」は保護され
た猫の印。一代限りの命を見守
り、さくらねこを育てる。その
命を愛するすべての人の家が
あめりだ。(田辺景幸)